

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成30年10月15日

【四半期会計期間】 第33期第2四半期(自 平成30年6月1日 至 平成30年8月31日)

【会社名】 株式会社ライフフーズ

【英訳名】 Life Foods Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 大 平 毅

【本店の所在の場所】 大阪府吹田市江坂町一丁目13番41号

【電話番号】 06 - 6338 - 8331(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役
兼執行役員管理本部長 松 本 邦 泰

【最寄りの連絡場所】 大阪府吹田市江坂町一丁目13番41号

【電話番号】 06 - 6338 - 8331(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役
兼執行役員管理本部長 松 本 邦 泰

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第32期 第2四半期累計期間	第33期 第2四半期累計期間	第32期
会計期間		自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日	自 平成30年3月1日 至 平成30年8月31日	自 平成29年3月1日 至 平成30年2月28日
売上高	(千円)	6,599,729	6,661,962	12,901,692
経常利益	(千円)	202,638	125,316	252,515
四半期(当期)純利益	(千円)	126,537	38,971	88,682
持分法を適用した場合の 投資利益	(千円)			
資本金	(千円)	1,838,526	1,838,526	1,838,526
発行済株式総数	(株)	18,302,000	3,660,400	3,660,400
純資産額	(千円)	4,115,733	4,085,145	4,077,837
総資産額	(千円)	6,756,478	6,735,647	6,581,700
1株当たり四半期 (当期)純利益金額	(円)	41.36	12.74	28.99
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
1株当たり配当額	(円)			10.00
自己資本比率	(%)	60.9	60.6	62.0
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	242,859	359,321	257,846
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	1,161,831	398,835	558,728
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	78,983	98,736	97,613
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	3,421,199	2,356,417	1,696,996

回次		第32期 第2四半期会計期間	第33期 第2四半期会計期間
会計期間		自 平成29年6月1日 至 平成29年8月31日	自 平成30年6月1日 至 平成30年8月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	17.47	1.09

- (注) 1 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、四半期連結累計期間等に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。また、持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 4 平成29年9月1日付で株式併合(普通株式5株につき1株の割合で併合)を実施しております。これに伴い、前事業年度の期首に当該株式併合が実施されたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。
- 5 平成29年4月17日開催の取締役会決議により、株式併合の効力発生日である、平成29年9月1日付で普通株式の単元株式数を1,000株から100株に変更しております。

2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の業況

当第2四半期累計期間におけるわが国の経済は、堅調な企業収益に支えられ、設備投資の増加や雇用・所得環境の改善により緩やかな景気回復基調がみられる一方、米中貿易摩擦及び東アジアの動向における金融市場や一部通貨の不安定な変動が懸念され先行き不透明な状況で推移しました。

外食産業におきましては、人手不足及び採用難による人件費及び採用費の上昇、消費嗜好の多様化等の業界を取り巻く環境変化に対応した顧客獲得競争など、厳しい経営環境が続いております。

このような環境の中、当社は、一汁三菜をコンセプトに、旬の素材を使った高品質とおいしさにこだわった定食屋業態「街かど屋」を事業の柱として店舗展開を行っております。並行して、できたてメニューにこだわった「ザめしや」等の既存店舗の強化と、店舗開発及び不採算店舗の撤退を進めております。

また、各業態期間限定メニューを導入し、「ザめしや」ではまぐろ漬けごはんの販売及び鉄板焼フェアやざるそばフェアを実施し、「街かど屋」では高級感のあるうな重や、牛肩ロースカットステーキ定食の販売のほかスタンプがたまるとお食事券としてご利用いただけるスタンプラリーカードの配布を開始しました。「めしや食堂」では夏野菜カレー等の月替わりカレーの販売、「讃岐製麺」では肉ぶっかけフェアやカレーざるフェアを実施し、カレーのざるうどん等を販売いたしました。

当第2四半期累計期間の店舗展開につきましては、新規出店が3店舗となった結果、店舗数は128店舗となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高は6,661,962千円（前年同四半期比 0.9%増）、営業利益は100,980千円（前年同四半期比 40.9%減）、経常利益は125,316千円（前年同四半期比 38.2%減）、四半期純利益は38,971千円（前年同四半期比 69.2%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産の部)

流動資産は、現金及び預金の増加等により3,798,952千円（前事業年度末は3,624,258千円）となりました。有形固定資産は、新規出店数が予定を下回ったことや既存店舗の減損損失による特別損失の計上で1,366,533千円（前事業年度末は1,383,041千円）、投資その他の資産は、繰延税金資産の増加等により1,469,774千円（前事業年度末は1,464,800千円）となり、資産の部合計は、6,735,647千円（前事業年度末は6,581,700千円）となりました。

(負債の部)

流動負債は、買掛金の増加等により1,701,306千円（前事業年度末は1,490,894千円）となりました。固定負債は、長期借入金の減少等により949,196千円（前事業年度末は1,012,967千円）となり、負債の部合計は2,650,502千円（前事業年度末は2,503,862千円）となりました。

(純資産の部)

純資産の部合計は、利益剰余金の増加等により4,085,145千円（前事業年度末は4,077,837千円）となりました。これにより、当第2四半期会計期間末の自己資本比率は60.6%（前事業年度末は62.0%）となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物の四半期末残高は前事業年度末に比べ659,421千円増加し、2,356,417千円となっております。

営業活動によるキャッシュ・フローは、主として法人税等の支払額が29,590千円あったものの、税引前四半期純利益を84,968千円を計上したことや、非資金的費用として減価償却費87,022千円があったこと等により359,321千円の収入（前年同四半期は242,859千円の収入）となっております。

投資活動によるキャッシュ・フローは、預入期間が3ヶ月を超える定期預金の預入による支出950,000千円及び払戻による収入1,450,000千円、差入保証金の回収による収入4,680千円、新規出店及び店舗改装のための有形固定資産の取得による支出99,245千円があったこと等により、398,835千円の収入（前年同四半期は1,161,831千円の収入）となっております。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金52,369千円、割賦債務66,645千円の返済による支出等98,736千円の支出（前年同四半期は78,983千円の支出）となっております。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因

当第2四半期累計期間において、当社の経営成績に重要な影響を与える要因に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	4,800,000
計	4,800,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年8月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年10月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,660,400	3,660,400	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	3,660,400	3,660,400		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成30年6月1日～ 平成30年8月31日		3,660,400		1,838,526		1,537,526

(6) 【大株主の状況】

平成30年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
公益財団法人ライフスポーツ財団	大阪府吹田市江坂町1丁目23-43	600,000	16.39
清久商事株式会社	大阪市北区西天満1丁目11-20	524,800	14.34
清水 三夫	兵庫県西宮市	409,200	11.18
ライフフーズ従業員持株会	大阪府吹田市江坂町1丁目13-41	362,800	9.91
資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	198,800	5.43
麒麟麦酒株式会社	東京都中野区中野4丁目10-2	100,000	2.73
ケイ低温フーズ株式会社	兵庫県伊丹市北伊丹5丁目43-1	60,000	1.64
株式会社昭和	愛知県稲沢市福島町中之町80	60,000	1.64
株式会社紀陽銀行 (常任代理人 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)	和歌山市本町1丁目-35 (東京都港区浜松町2丁目11-3)	40,000	1.09
株式会社神明	兵庫県神戸市中央区栄町通6丁目1-21	40,000	1.09
清水 京子	東京都世田谷区	40,000	1.09
清水 周一	東京都世田谷区	40,000	1.09
計	-	2,475,600	67.63

- (注) 1 当社は、従業員の新しい福利厚生サービスとして自社の株式を給付する「株式給付信託(J-E S O P)」を導入しており、本信託の受託者であるみずほ信託銀行株式会社から再信託を受けた資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が当社相談役清水三夫より、当社株式1,000,000株を取得しております。
- 2 上記の他、当社所有の自己株式が400,879株(10.95%)あります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成30年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 599,600	1,988	(注)1
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,060,500	30,605	同上
単元未満株式	普通株式 300		(注)2
発行済株式総数	普通株式 3,660,400		
総株主の議決権		32,593	

(注) 1 当社所有の自己株式が400,800株及び資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が所有する当社株式が198,800株含まれております。

2 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式79株が含まれております。

【自己株式等】

平成30年8月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ライフフーズ	大阪府吹田市江坂町 1丁目13-41	400,800	198,800	599,600	16.38
計		400,800	198,800	599,600	16.38

(注) 他人名義で所有している理由等

所有理由	名義人の氏名又は名称	名義人の住所
「株式給付信託(J-E S O P)」制度 の信託財産として拠出	資産管理サービス信託銀行 株式会社(信託E口)	東京都中央区晴海1丁目8-12

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(平成30年6月1日から平成30年8月31日まで)及び第2四半期累計期間(平成30年3月1日から平成30年8月31日まで)に係る四半期財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年2月28日)	当第2四半期会計期間 (平成30年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,146,996	3,306,417
売掛金	9,473	16,346
商品	262	252
原材料及び貯蔵品	50,486	55,146
繰延税金資産	92,099	88,433
その他	324,939	332,354
流動資産合計	3,624,258	3,798,952
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1 1,201,917	1 1,193,390
その他	1 181,123	1 173,143
有形固定資産合計	1,383,041	1,366,533
無形固定資産		
109,601		100,388
投資その他の資産		
差入保証金	905,823	904,130
繰延税金資産	261,993	270,090
その他	297,493	296,063
貸倒引当金	510	510
投資その他の資産合計	1,464,800	1,469,774
固定資産合計	2,957,442	2,936,695
資産合計	6,581,700	6,735,647
負債の部		
流動負債		
買掛金	361,759	456,769
1年内返済予定の長期借入金	104,742	104,748
未払法人税等	92,775	96,259
賞与引当金	123,330	102,038
その他	808,287	941,490
流動負債合計	1,490,894	1,701,306
固定負債		
長期借入金	168,251	115,876
長期預り保証金	98,712	98,536
退職給付引当金	457,361	471,397
役員退職慰労引当金	52,416	44,249
その他の引当金	1,665	1,167
その他	234,560	217,969
固定負債合計	1,012,967	949,196
負債合計	2,503,862	2,650,502

(単位：千円)

	前事業年度 (平成30年2月28日)	当第2四半期会計期間 (平成30年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,838,526	1,838,526
資本剰余金	1,537,526	1,537,526
利益剰余金	857,938	864,315
自己株式	156,153	155,222
株主資本合計	4,077,837	4,085,145
純資産合計	4,077,837	4,085,145
負債純資産合計	6,581,700	6,735,647

(2) 【四半期損益計算書】
【第2四半期累計期間】

	(単位：千円)	
	前第2四半期累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)
売上高	1 6,599,729	1 6,661,962
売上原価	2,143,544	2,192,907
売上総利益	4,456,184	4,469,054
販売費及び一般管理費	2 4,285,429	2 4,368,074
営業利益	170,754	100,980
営業外収益		
受取利息	1,848	2,022
有価証券利息	-	788
受取家賃	81,883	82,802
その他	29,231	21,385
営業外収益合計	112,962	106,998
営業外費用		
支払利息	1,843	1,489
賃貸収入原価	78,512	79,119
その他	722	2,053
営業外費用合計	81,079	82,662
経常利益	202,638	125,316
特別損失		
有形固定資産除却損	1,653	1,387
減損損失	4,569	38,961
特別損失合計	6,222	40,348
税引前四半期純利益	196,415	84,968
法人税等	69,877	45,996
四半期純利益	126,537	38,971

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	196,415	84,968
減価償却費	86,322	87,022
減損損失	4,569	38,961
転貸損失引当金の増減額(は減少)	780	498
賞与引当金の増減額(は減少)	2,074	21,291
退職給付引当金の増減額(は減少)	18,513	14,967
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	36,515	8,166
受取利息及び受取配当金	1,848	2,810
支払利息及び社債利息	1,843	1,489
有形固定資産除却損	1,653	1,387
たな卸資産の増減額(は増加)	893	4,650
仕入債務の増減額(は減少)	75,573	95,010
売上債権の増減額(は増加)	6,200	6,872
未払消費税等の増減額(は減少)	3,979	13,932
その他の資産の増減額(は増加)	349	3,757
その他の負債の増減額(は減少)	30,586	96,517
その他	3,072	1,908
小計	310,672	388,115
利息及び配当金の受取額	1,222	2,251
利息の支払額	1,805	1,454
法人税等の支払額	67,229	29,590
営業活動によるキャッシュ・フロー	242,859	359,321
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	250,000	950,000
定期預金の払戻による収入	1,550,000	1,450,000
有形固定資産の取得による支出	132,683	99,245
無形固定資産の取得による支出	1,500	-
差入保証金の差入による支出	17,024	4,895
差入保証金の回収による収入	14,909	4,680
貸付けによる支出	9,521	8,000
貸付金の回収による収入	7,651	6,296
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,161,831	398,835

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	52,363	52,369
セール・アンド・割賦バック取引に基づく資産 売却代金の受入額	74,545	52,814
割賦債務の返済による支出	60,624	66,645
配当金の支払額	40,540	32,535
財務活動によるキャッシュ・フロー	78,983	98,736
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,325,707	659,421
現金及び現金同等物の期首残高	2,095,492	1,696,996
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 3,421,199	1 2,356,417

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

1 有形固定資産に係る国庫補助金の受入れによる圧縮記帳累計額

	前事業年度 (平成30年2月28日)	当第2四半期会計期間 (平成30年8月31日)
建物	30,022千円	30,022千円
その他	5,067千円	5,067千円

(四半期損益計算書関係)

1 当社の売上高は、連休や夏休みなど休日が第1及び第2四半期会計期間に多くなることにより、第3及び第4四半期会計期間に比べ高くなる季節的変動があり、営業利益以下においても第1及び第2四半期会計期間に偏る傾向があります。

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)
給与手当	505,308千円	520,546千円
賃金	1,486,514 "	1,541,955 "
賞与引当金繰入額	119,595 "	102,038 "
退職給付費用	62,430 "	52,826 "
役員退職慰労引当金繰入額	2,854 "	2,433 "
賃借料	781,842 "	792,021 "

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自 平成30年3月1日 至 平成30年8月31日)
現金及び預金	3,471,199千円	3,306,417千円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	50,000 "	950,000 "
現金及び現金同等物	3,421,199千円	2,356,417千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年5月25日 定時株主総会	普通株式	40,744	2.50	平成29年2月28日	平成29年5月26日	利益剰余金

(注) 1 配当金の総額には、株式給付信託(J-E S O P)制度に基づく資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する自社の株式に対する配当金2,500千円が含まれております。

2 1株当たり配当額2円50銭には、東京証券取引所JASDAQ市場上場10周年記念配当50銭を含んでおりません。

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自 平成30年3月1日 至 平成30年8月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年5月24日 定時株主総会	普通株式	32,595	10.00	平成30年2月28日	平成30年5月25日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、株式給付信託(J-E S O P)制度に基づく資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する自社の株式に対する配当金2,000千円が含まれております。

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日)

当社は、外食事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第2四半期累計期間(自 平成30年3月1日 至 平成30年8月31日)

当社は、外食事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自 平成30年3月1日 至 平成30年8月31日)
1株当たり四半期純利益金額	41円36銭	12円74銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	126,537	38,971
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	126,537	38,971
普通株式の期中平均株式数(千株)	3,059	3,059

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2 1株当たり四半期純利益金額を算定するための普通株式の期中平均自己株式数については、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が所有する当社株式を含めております。
3 平成29年9月1日付で株式併合(普通株式5株につき1株の割合で併合)を実施しております。これに伴い、前事業年度の期首に当該株式併合が実施されたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年10月10日

株式会社ライフフーズ
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	川	合	弘	泰	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	井	上	嘉	之	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ライフフーズの平成30年3月1日から平成31年2月28日までの第33期事業年度の第2四半期会計期間(平成30年6月1日から平成30年8月31日まで)及び第2四半期累計期間(平成30年3月1日から平成30年8月31日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ライフフーズの平成30年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。